

重要さをまず台湾発着の物流を強化する

台湾佐川急便国際(股)有限公司は佐川急便グループの台湾現地法人として、昨年9月に設立された。佐川急便としては、台湾とは地場の物流企業新竹貨運と非常に長い交流を持ち、現在も国内業務では提携関係にある。

アジア経済、中華圏の中で極めて重要な位置付けの台湾からの物流・商流を強化するために、現地法人の設立に至った。今回は台湾佐川急便国際(股)有限公司の肥後智徳董事にお話をうかがった。



台湾佐川急便国際(股)有限公司
董事 肥後智徳氏

御社について簡単に概要をご説明願えますか？

弊社は佐川急便の子会社として2005年9月に設立されました。台湾の二つの物流企業との合併です。資本金は5,000万元で佐川急便グループのシンガポール子会社から56%、台湾の亜麒通運から34%、残り10%を同じく台湾の新竹貨運が出資しております。総経理には亜麒通運から人を出してもらい現場を指揮してもらっています。

本社は台北市で従業員数は総勢51名で、この他佐川急便からの駐在員として日本人が私ともう1人営業担当者の二名です。

台湾での事業はフォワーディング業務を手がけています。フォワーディング業務とは、荷主に代わって航空貨物を輸送・通関を行う事業者をいいます。運送業界では、自ら輸送手段を持ち実際の輸送を行う実運送業者をキャリア、利用運送業者をフォー

ダーと呼んでいます。また、ここから派生して小口便としてのクーリエ便についても手がけています。

設立までは如何でしたか？

今回、2005年9月の設立にあたり、この物流業界で全くの新規でしかも独資での立ち上げと言うのは難しいと考え、合併を選びました。昨年9月からのほんの短い期間で営業組織から物流面まで構築できたのは、まさにこうした台湾のパートナーさんのおかげでした。日本人だけで台湾でこの短い間にここまで立ち上げるのは相当に難しいと思います。

- 佐川急便グループは台湾とはこれまでも深い関係があったそうですね。

私どもと新竹貨運とは1970年代に創業者の時代に、

日本企業から見た台湾

新竹貨運の建て直しの依頼を受けたのがきっかけです。このために、弊社では当時は十数人のスタッフを送り込んで技術指導にあたっていました。現在では新竹貨運さんも非常に優良な企業さんになったので、顧問を1人派遣しているのみですが、業務提携を結んで業務上のパートナーとしてお付き合いがあります。

今回新たに台湾に現地法人を設立したのはどのようなねらいがあったのですか？

台湾企業は日本との関係も深い上に、益々重要性を増す中国で、台湾企業のプレゼンテーションは非常に大きいものがあります。この台湾からの半導体や電子関連の輸送需要や、また、台湾企業の取引では物流は上海や大連から日本へ向かうようなものでも、台湾での決済やオーダーになるものが非常に多いです。「アジア No.1 の総合物流会社になる」ことを目標としています。

これまで台湾では国内便については新竹運輸さんとの提携があり技術指導を行ってきましたが、国際便については代理店さんにお任せしてきました。このため、日中、日台については後発ですが、ネットワークとして日本の末端では佐川急便専属ドライバーが密なネットワークで動いてくれ、極めて密なサービスを提供出来るため、ユーザーの目から見れば他社には負けないと思います。これまでは海外から日本の部分で他社が介在しなければなりませんでした。今回、弊社が出来たことで佐川急便のネットワークで完結できます。

国際ロジスティックとなると台湾国内ではなく、広域での戦略が重要となりますが、佐川急便グルー

プとしてアジアではどのような展開をなさっていますか？

弊社グループはアジアでは台湾の他に、シンガポール、ベトナム、タイ、韓国、フィリピン、インドネシアに現地法人を持っています。また、中国では上海、天津、北京、香港、深圳に現地法人を持つ他、深圳現地法人の支店を北京、天津、大連、青島、広州に有します。また、この他の地域に駐在員事務所を有しています。

フォワーディング業務は競争が非常に厳しい分野ですが、物流面での付加価値で差別化を図っていきたいと考えています。基本的に私どもは単なる物流機能を提供するだけではなく、顧客企業の物流部門として動くことを心がけています。このため、ピッキングや値札つけ、請求書発行まで行う機能を持っています。また、台湾では今のところありませんが、中国ではきちんと認可を経て、お客様の買い付け業務まで代行する機能を持っています。

台湾内での展開はどう考えていらっしゃいますか？

台湾国内については、あくまでも国際物流を念頭においた展開を考えており、国際物流の発着点としての物流網の整備を行っていきます。今後は高雄、台中への事務所を設けて、また自前での倉庫設立などに積極的に取り組んでいきたいと思えます。

ヤマト運輸さんや日通さんがやっているような小口貨物の国内から国内の物流については提携先の新竹貨運さんが手がけていますので、そちらにお任せしています。